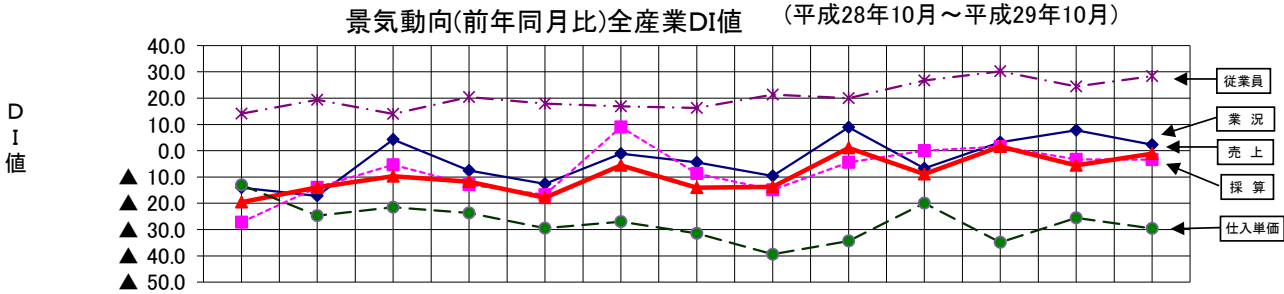


早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 10月分

【10月の概要】 景況感はやや改善の動き、先行きは依然として慎重な見通し

9月に比べると、売上DIのプラス幅は減少し、仕入単価DIのマイナス幅は増加しているが、採算DIのマイナス幅は、ほぼ横這いで、業況DIのマイナス幅は減少している。従業員DIのプラス幅は増加した。建設業や製造業では原材料価格が上昇しているなどの声も聞かれ、採算改善に影響を及ぼしており、景況感は横這い。

先行きについては、9月に比べ、売上DIのプラス幅はやや増加し、業況DIもマイナスからプラスに転じているが、仕入単価DIと採算DIはマイナス幅がやや増加している。従業員DIはプラス幅がさらに増加した。人手不足感の強まりと仕入コスト増が懸念されるが、売上と業況面ではやや改善の見通しとなっている。



	平成28年10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	平成29年10月
売上	▲14.1	▲17.2	4.3	▲7.5	▲12.6	▲1.1	▲4.4	▲9.6	8.9	▲6.7	3.2	7.8	2.3
採算	▲27.2	▲14.0	▲5.4	▲12.9	▲16.8	9.0	▲8.7	▲14.9	▲4.4	0.0	1.6	▲3.3	▲3.4
業況	▲19.6	▲14.0	▲9.7	▲11.8	▲17.9	▲5.6	▲14.1	▲13.8	1.1	▲8.9	1.6	▲5.6	▲1.1
仕入単価	▲13.0	▲24.7	▲21.5	▲23.7	▲29.5	▲27.0	▲31.5	▲39.4	▲34.4	▲20.0	▲34.9	▲25.6	▲29.6
従業員	14.1	19.4	14.0	20.4	17.9	16.9	16.3	21.3	20.0	26.7	30.2	24.4	28.4

【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

売上DIは5.5ポイントプラス幅が減少し、仕入単価DIは4.0ポイントマイナス幅が増加したが、採算DIは0.1ポイントマイナス幅が増加して横這い、業況DIは4.5ポイントマイナス幅が減少した。従業員DIは4.0ポイントプラス幅が増加した。

全産業平均DI - 向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	仕入単価	従業員	業況
9月	8.9	▲1.1	▲23.3	23.3	▲1.1
10月	9.1	▲2.3	▲25.0	35.2	2.3

先行きは、売上DIは0.2ポイントプラス幅が増加し、業況DIはマイナスからプラス2.3ポイントに転じ、採算DIは1.2ポイント、仕入単価DIは1.7ポイントマイナス幅が増加した。従業員DIは11.9ポイントプラス幅が増加した。

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	設備工事	売上増の要因は、営業地域の広域化と仕事のある地域へ注力しているため。
	総合建設	仕入単価は、鋼材関連の上昇が著しく、先行きも上昇傾向が続く。業況は、地元同業者も売上は上がってきており、景況感も出てきているようだ。
製造業	鉄工	仕入単価の上昇は、原材料の値上げが影響しており、今後も上昇が予想される。
	食料品	天産品の不作により原料不足となり、原料価格が上昇している。
卸売業	建築資材	建設需要が少なく、生コンの出荷が激減している。
	青果	ネットを利用した取引が増え、事務作業が煩雑になり、時間と手間がかかるようになった。
小売業	家具・雑貨	業況及び採算面での低下が懸念される。
サービス	ビルメンテナンス	採算の悪化は、人手不足に伴い外注費が増加していることが大きい。
	飲食	中央区役所の移転に伴い、一般飲食店には良い影響が出ていると見られるが、それも限定的で全般的な好況感には欠ける。
	タクシー	業界自体、高齢化が進んで若者が入ってこなくて、各社人手不足が加速している。